

羽咋市第5次総合計画に向けた市民意識調査の調査項目の作成と市長への提言～NPO法人「わくわくネット・はくい」での活動を通じた協働のまちづくりの模索～

(代表) 河上紘栄 (人間社会学域地域創造学類地域プランニングコース3年)

白井和歌子 小林知美 住吉愛里

(人間社会学域地域創造学類地域プランニングコース3年)

(指導教員) 眞鍋知子 (人間社会研究域人間科学系 准教授)

1. 背景と研究目的

住民の公共サービスへのニーズの多様化や複雑化、行政の財源不足などが問題となってきた現代において、行政単独では解決できない問題が表面化してきている。そのような中で、地域住民に近い立場であるNPO法人との「協働」によって住民のニーズに応えるという考え方が、注目されている。今回は「NPO法人わくわくネット・はくい」でのインターンシップという活動を通して、一人ひとりがやりたいことをすることで貢献できるような社会を実現するためにはどうすればよいかということ、NPOの視点から考える。また、地域創造学類の学生として大学で学んだことや習得した社会調査の技法を地域社会のなかで実践することを目的としている。

羽咋市は、約24000人の人口をもつ市であり、「健やかで心豊かに、自然と共生するまち」を理想像としている。2001(平成13年)に、2001年から2010(平成22)年までを計画年次とし、市内全域で開催した「まちづくり会議」、「市民まちづくりアンケート調査」での市民の意見や要望を踏まえて、羽咋市のめざすべき方向を掲げた第4次総合計画を策定した。このほど、2011年からの10年間の行政(まちづくり)の指針を示す第五次総合計画の策定にあたり、その下地となる市民意識調査である「市民まちづくりアンケート調査」をわくわくネットに委託する予定である。

そこで今回は、わくわくネットが羽咋市から受託予定の、第五次総合計画策定のための「市民まちづくりアンケート」の項目調査や項目選定を、羽咋市役所職員・市民等と協働して行う。また、自分たちでも独自の調査や学習を行い、学生の視点から市長に提言する。

2. 概要

今回は8月19日から日までの10日間、羽咋市で調査を行った。

まずそれ以前の7月初旬に羽咋へ赴き、受け入れ側のわくわくネット・はくい、羽咋市役所と調査日程や内容についての打ち合わせを行った。ある特定の分野に絞って調査をしていくという方針に決まり、グループで話し合った結果、女性である私たちにとって関心

のある子育て分野に関する調査を行うことにした。

調査期間中には、市役所の健康福祉課へのヒヤリング調査、羽咋市内の保育所や児童館、子育てサロンでの聞き取り等の調査を行ったほか、まちづくりに関するシンポジウムへの参加などを通して、羽咋市やまちづくりについての知識を深めた。また、わくわくネット・はくいの支援する各種団体が主催する各種イベントにも参加し、地元の人とふれあい、生の声をきいた。

調査期間後にはパワーポイントを作成し、調査内容とそれを踏まえて考えた自分たちの提案をまとめ、9月15日に市役所で報告した。

3. 調査内容

3-1 市役所健康福祉課

健康福祉課長に羽咋市の子育て政策（マイ保育園事業・チャイルドシートの貸出サービス・など）についてのお話を聞き、とりわけ公設公営と公設民営の保育所についての説明を詳しくしていただいた。羽咋市は、少子化の影響を受け年間で150人程度に出生数が減少しており、それに伴い平成3年には17あった保育所が平成21年には半分以下の9となっている。また全国でもいち早く公設民営の保育所を取り入れていることや、石川県の他地域と比べて休日保育や病後児保育が充実していることを教えていただいた。

3-2 保育所、児童館、子育てサロン

保育所 2か所

児童館 2か所

全国的にも珍しい公設民営の保育園である「こすもす保育園」に視察に行った。この保育園では休日保育や病後児保育などの様々なサービスが充実していることから保護者の人気も高い。現在150人の子供たちが通っている市内一の保育園である。園長先生と保護者の方（11名）に聞き取り調査を行い、家族が協力的、3世帯・近所に実家のある人が多い、羽咋市は子育てにやさしい、羽咋子育てサロンの認知度、利用率は高いことや、保育園の選択の大きな参考基準になるふれあい広場（※マイ保育園登録）の利用率は高いことなどがわかった。また、特別保育に関しては病後児保育ではなく病児をしてほしいのが保護者の本音など様々なお話を伺った。これらのことから、細かい配慮、多様なサービス、立派な施設、徹底した消毒、入園前のサポート、民営らしく広報活動が充実、保育所同士・地域との連携を重視していることなどを感じとった。

※マイ保育園登録・・・羽咋市が行っている、保育園を身近な子育ての拠点と位置付け、保育士等による育児相談や一時保育（半日利用券3枚を発行）利用し、育児支援を受けて貰うことにより子育て家庭の育児不安の解消を図る。

次に公設公営の栗ノ保保育所を訪れた。羽咋市では数少ない公設公営の保育所。地域との密接なかかわりをもった活動を中心としており、地区のほとんどの子どもたちが通っている。地域のボランティアによるイネや畑が園庭にあった。私たちが訪れた日には、調理

師が食の先生となり、当日の給食に出る地元の食材の話をしたり、園児たちが老人の方の前で発表する踊りの練習をしているところを見せて貰ったりした。所長さんのお話では、ベテランの先生を中心に園児・先生ともに少人数体制で様々な活動を行い、自然の豊かな環境でのびのび育てているようで、隣の公民館や小学校との交流、異なる年代の子どもが関わる機会があるのが特徴的であった。

—子育てサロン—

このサロンはスーパーと隣接しており、買い物ついでに気軽に寄ることができる、親と子供のリフレッシュの場として多くの親子に利用されている。保育士が常駐し、買い物帰りのお母さん方などが子どもと一緒に施設内にあるおもちゃで遊んだり、絵本を読んだり、お母さん同士、子ども同士の交流の場所となっている。

子どもとお母さんのネットワーク形成、子どもとお母さんのリフレッシュの場、そこで解決できない問題に関しては、行政機関や専門家につないでもらえる、行政が広報を行っていること、ショッピングセンターの敷地内にあることで認知度が高く、利用しやすくなっている。

視察当日も予想以上に多くのお母さん方が利用していて驚いた。サロンでは育児に関する情報はもちろん、保育士さんも常駐していて気軽に相談できます。当日は市の職員の方から保育所の入所の案内や羽咋病院の方が実際に来てくださり、手洗い講習も行った。

—邑知学童—

放課後すぐに帰宅しても家族が戻っていない子どもたちを中心に学童保育を行っている。利用者のほとんどは羽咋小学校、瑞穂小学校の子どもたちで、現在30人ほどの子どもたちが利用している。建物は木造で、こすもす保育園とは対照的に消毒もなければ鍵もなかったのが、子どもたちはのびのびと遊んでいた。また、「学童にきたら『ただいま』』という決まりごとが書いてあり、子供の居場所であろうという思いが見られたのが印象的だった。

—千里浜児童センター—

ここでは、身近にあるものを使うことで、お金をかけずに楽しむことを大切にしている。地域のお年寄りを先生として招き魅力的な行事の運営など、地域住民とのつながりも大切にしており、幼児から中高生までの幅広い年代での利用がみられる。

私たちが、今回提案したのは「プレイリーダー」と「地域の日の策定」の2つである。羽咋市での視察等を通して、千里浜児童センターでの地域にある資源や人材を活かした活動に関心を持ち、羽咋市に現在あるが活用されていないものをうまく利用しよりよい子育て環境をつくることはできないかと考えたためである。インターンシップ先の「わくわくネット・はくい」の主催するイベントの中で羽咋市にはやる気にあふれた人がたくさんいることを知る一方で、うまく実現できない人が多いという事実を知り、市やNPOが仲介となって活かすことができないかと考えたためである。「プレイリーダー」とは集団で遊ぶことに慣れていない現在の子どもたちに、公園や公民館で大人が遊びの先生となってもらう

ものである。「地域の日の策定」は、粟ノ保保育所で地域の人々が畑を保育所内に作り、子どもたちと一緒に野菜やコメを作ったり、公民館や近くの小学校との交流を大切にしていたりするところを視察し、どの保育園でも週に1度地域に関することを学ぶ日を作ることによって子どもたちの地域への理解を深め、地域への愛着心をもつきっかけとなってほしいと思ったからである。そのため上記の2つの提言を市長に対して行った。

4. 研究成果

- ・外部から来た学生の視点から、羽咋市長に対し市民からの聞き取り調査で得られた生の声を提言することができた。
- ・私たちが行った羽咋市の子育て政策への提言が、市の施策として活かされる部分があった。
- ・社会調査論で学んだ量的調査、質的調査を実際の現場で活かすことができた。

5. おわりに

「文部科学省委託事業 志民塾」は、8月初頭から始まり、2月27日に塾生の成果発表により幕を閉じました。最初と終わりの講座以外は関わることはできませんでしたが、羽咋市民のみなさんのまちを元気にしたいという熱意にあふれていました。これからの羽咋市はこのようなまちのために貢献したいという市民の手によってますます素晴らしい市となることと思います。その活動のほんの一部でしたが関わることで非常に光榮に思います。これを過去のものとしてこれからも継続的に羽咋市と関わっていくことができたらなあと思っています。

調査にご協力いただいた視察先の方、市長をはじめとした羽咋市役所の職員の方々、そして私たちを快く受け入れてくださったNPO法人わくわくネット・はくいのみなさん、本当にありがとうございました。



↑羽咋市の山辺市長と提言後に。